

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成24年度 実施計画書

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関：	国立大学法人 京都大学 総合博物館
中国側拠点機関：	広州大学
韓国側拠点機関：	ソウル国立大学
ベトナム側拠点機関：	ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所

### 2. 研究交流課題名

(和文)： 東アジア脊椎動物種多様性研究基盤と標本ネットワーク形成  
(交流分野： 生物学 )

(英文)： Research platform for East Asian vertebrate species diversity and formation of specimen network (交流分野： Biology )

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/aa/index.html>

### 3. 採用期間

平成23年4月1日 ～ 平成26年3月31日  
(2年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関：国立大学法人京都大学 総合博物館

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：総合博物館・館長・大野照文

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：総合博物館・准教授・本川雅治

協力機関：なし

事務組織：京都大学 渉外部 渉外企画課 博物館グループ

#### 相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：中国

拠点機関：(英文) Guangzhou University

(和文) 広州大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

College of Life Science・Professor・WU Yi

(2) 国名：韓国

拠点機関：(英文) Seoul National University

(和文) ソウル国立大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

College of Veterinary Medicine・Professor・LEE Hang

(3) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Vietnam Academy of Science and Technology,

Institute of Ecology and Biological Resources

(和文) ベトナム科学技術院 生態学生物資源研究所

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Department of Vertebrate Zoology・Researcher・NGUYEN Truong Son

協力機関：(英文) Vietnam Academy of Science and Technology,

Vietnam National Museum of Nature

(和文) ベトナム科学技術院 ベトナム国立自然博物館

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

生物多様性は、地球生態系の保全、さらには人類の永続的な生存に不可欠な要素として、その理解に向けた研究が、国際規模で進められている。中でも陸上生態系の重要な位置をしめる陸上脊椎動物では、正確な種分類体系や同定手法を確立し、分布情報を蓄積することに加えて、種分化、多様な環境への適応機構といった、種多様性が生み出されてきたプロセスやメカニズムについても解明することが必要である。東アジアは、日本を初めとする多数の島嶼や朝鮮半島をもち、大陸部においては東部の低地平原、西部に見られるヒマラヤへと繋がる高山地帯、青海チベット高原に代表される高地平原、モンゴルや新疆ウイグル地域に見られる砂漠や草原地帯と実に様々な地形が見られ、それぞれに特有の動物が分布する世界的にも陸上脊椎動物の種多様性がきわめて高い地域である。と同時に、その種多様性生成過程においても興味深い。本研究交流課題では、陸上脊椎動物の種多様性について国境を越えた東アジア広域で解明するため、日本を軸とした韓国、中国、ベトナムとの国際研究交流と学術基盤形成を行う。高度な価値をもつ新たな標本資料の収集のためにフィールド調査を主体においた共同研究を進めると共に、各国がこれまでに蓄積した、あるいは本課題によって新たに構築された標本コレクションのネットワーク化を進め、本課題参加機関・研究者はもちろんのこと、世界の研究者が種多様性研究に活用できる体制を構築する。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

初年度の活動では拠点機関である、京都大学総合博物館、ソウル国立大学、広州大学、ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所、および協力機関であるベトナム科学技術院ベトナム国立自然博物館の間での研究協力体制の構築が行われた。京都大学総合博物館と広州大学生命科学学院、および生態学生物資源研究所との部局間学術交流協定の締結は、その一環である。また、参加メンバーとの研究協力体制の確立のために、8月に広州大学で国際シンポジウムを開催し、本事業の実施について、合意形成を図った。

共同研究は哺乳類、爬虫両生類の2つについてテーマを設け、参加4ヶ国の多国間共同研究を推進した。種多様性の高い地域である、中国広東省、貴州省、韓国半島部、ベトナムでの野外調査と標本収集を本事業により行った。共同研究では、種多様性理解において優先度の高い分類群を選定し、正確な種分類体系や同定手法の確立、分布情報の蓄積、種分化、多様な環境への適応機構といった、種多様性が生み出されてきたプロセスやメカニズムの解明をすすめる、いくつかの論文を共同で執筆・投稿した。研究の現状認識や成果の共有のために、ソウル国立大学と京都大学で2回のセミナーを開催した。また、本事業の目指す標本ネットワーク形成のために、参加メンバーの所属機関にくわえて、日本、中国、韓国、ベトナムの主要な脊椎動物標本の収蔵施設を訪問し、ネットワーク形成に向けた協力体制の構築を進め、標本収蔵状況の基礎情報の蓄積状況について把握した。

若手研究者育成のために、共同研究に若手研究者を積極的に参加させ、調査手法を教示するとともに、若手研究者同士の交流をはかった。シンポジウムやセミナーにも積極的に関与しており、若手研究者育成は着実に進んでいる。

このように、本事業による研究交流活動は全機関を通じた研究交流目標の達成に向けて、着実に成果をあげながら進行しているといえる。

## 7. 平成24年度研究交流目標

### 7-1 研究協力体制の構築

日本、中国、韓国、ベトナムの拠点・協力機関およびその他の機関との研究協力体制をさらに強化する。中国では拠点機関の広州大学との研究協力体制を、京都大学総合博物館-広州大学生命科学学院との部局間学術交流協定も有効に機能させながら、本プログラムを推進する。このほかに、山東大学威海分校海洋学院や中国科学院成都生物研究所などとの研究協力体制の確立をはかる。韓国では拠点機関のソウル国立大学、および済州国立大学との研究協力体制の強化を進める。ベトナムとは拠点機関のベトナム科学技術院生態学生物資源研究所との研究協力体制を、京都大学総合博物館との部局間学術交流協定を有効に機能させながら、推進するとともに、協力機関であるベトナム国立自然博物館との研究協力体制の強化をはかる。本研究課題はこのような二国間における研究協力体制の強化に加えて、多国間の枠組みにおける研究基盤やネットワーク形成が重要である。そのために参加4ヶ国の研究者の研究協力体制の構築と学術交流を目指した国際シンポジウムを本研究

課題のセミナーとして京都大学で開催する。また、標本ネットワークの構築のために、拠点・協力機関、参加メンバーの所属機関における標本収蔵状況の視察や情報共有を進めるとともに、参加 4 ヶ国をはじめとする東アジアの大学・研究機関の脊椎動物の標本収蔵状況の把握とネットワーク形成を進める。

### 7-2 学術的観点

本研究課題では、脊椎動物種多様性の東アジア広域理解を目指し、そのためにフィールドワークによる新たな標本やデータ収集を進める。本課題により、4-5月に中国・山東省、7月に日本、8月にベトナムでの共同調査を予定している。また、関連した別途経費でもさらなる調査を行う。フィールド調査で得られた標本に基づいて、形態学解析、核型解析、遺伝学解析などを多国間の枠組みの共同研究として進める。対象とする分類群では、種多様性理解の基盤となる種分類体系の改訂や新分類群（新種など）の記載が必要なものが多く、分類学的研究を推進する。また、広域に分布する分類群を主な対象にして、種分化や多様な環境への適応機構といった、種多様性が生み出されてきたプロセスやメカニズムの解明も引き続き進める。本事業により得られた成果については精査しながら、学会発表を行い、研究論文としての執筆・投稿を進めていく。野外調査については、中国では相手国においても、共同研究プロジェクトが立ち上がっているため、経費を分担しながら、学術的に効果的な調査を目指す。

### 7-3 若手研究者育成

野外調査には日本および相手国の双方からの大学院生や若手研究者を参加させ、調査手法を教示するとともに、若手研究者同士の交流をはかる。また、調査で得られた標本やデータの整理や調査概要の作成なども若手研究者が中心になって進めてもらう。本年度は7月の京都での国際シンポジウムの前に、日本、中国、韓国、ベトナムの大学院生・若手研究者約10名で、共同調査を実施し、野外調査手法、標本の作成や研究手法、研究成果のとりまとめなどを、若手研究者が中心となって行うことを計画している。このほかに共同研究実施を通じた若手研究者の育成も計画している。また、国際シンポジウムでも、若手の口頭発表を増やし、ポスター発表も含めた優秀発表賞を設けるなどして、若手研究者の研究能力の向上をはかる。

主要なメンバーが所属する京都大学において、学内メンバー向けの研究報告会を開催し、若手研究者を中心に調査、共同研究としての海外渡航報告や国際シンポジウムの参加報告などについて発表してもらう。

本事業のベトナム側参加メンバーの2名が日本学術振興会の論文博士取得支援事業に採用されており、本研究課題と連携して、研究指導を進める。また、本事業の日本側メンバー2名が中国・山東大学の博士大学院生共同指導教員となっており、本研究課題の推進と合わせて研究指導を進めていく。日本側メンバーの大学院生数名は、本事業による研究成果

を 8 月にカナダで開催される国際爬虫両生類会議に、別途経費で参加し、発表する予定であり、研究成果発表による研究能力向上が期待される。

#### 7-4 社会貢献

本事業が目指す東アジアの脊椎動物の種多様性理解は社会においても関心の高いテーマである。本事業による成果の一部は、京都大学総合博物館で 2012 年 6 月から 10 月にかけて企画展「陸上脊椎動物の多様性と進化-京都大学の挑戦」として社会に広く知ってもらうために準備を進めている。このほか、本事業による研究成果や活動報告は事業 HP および京都大学 HP などを通じて、広く情報発信する予定である。

## 8. 平成24年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成23年度	研究終了年度	平成25年度	
研究課題名	(和文) 東アジアにおける哺乳類の種多様性に関する研究 (英文) Study on the species diversity of mammals in East Asia					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 本川雅治・京都大学・准教授 (英文) MOTOKAWA Masaharu・Kyoto University・Associate Professor					
相手国側代表者 氏名・所属・職	(中国) WU Yi・Guangzhou University・Professor (韓国) LEE Hang・Seoul National University・Professor (ベトナム) NGUYEN Truong Son・Institute of Ecology and Biological Resources・Researcher					
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先 派遣元	日本 <人/人日>	中国 <人/人日>	韓国 <人/人日>	ベトナム <人/人日>	計 <人/人日>
	日本 <人/人日>		3/29 (2/40)	0/0 (0/0)	1/30 (1/30)	4/59 (3/70)
	中国 <人/人日>	2/32 (2/12)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/32 (2/12)
	韓国 <人/人日>	4/31 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	4/31 (0/0)
	ベトナム <人/人日>	3/31 (1/30)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		3/31 (1/30)
	合計 <人/人日>	9/94 (3/42)	3/29 (2/40)	0/0 (0/0)	1/30 (1/30)	13/153 (6/112)
	② 国内での交流					
	4人/24人日					
日本側参加者数						
17名	(12-1 日本側参加研究者リストを参照)					
中国側参加者数						
21名	(12-2 中国側参加研究者リストを参照)					
韓国側参加者数						
22名	(12-3 韓国側参加研究者リストを参照)					
ベトナム側参加者数						
7名	(12-4 ベトナム側参加研究者リストを参照)					

<p>24年度の 研究交流活動 計画</p>	<p>日本の研究者3名が4～5月に中国・山東大学、1名が12月にベトナムに渡航し、それぞれ山東大学、生態学生物資源研究所との野外調査と共同研究を実施する。また、国際シンポジウムを開催する7月に中国から2名、ベトナムから3名、韓国から4名の研究者を招へいし、シンポジウムにあわせて共同研究を展開する。このうち大学院生や若手研究者とは、野外調査、標本収集、研究手法の習得を含む本研究課題参加4ヶ国の共同調査を国内で実施する。</p>
<p>24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>4ヶ国による多国間共同研究の枠組み構築を目指した共同研究を本格的に展開することにより、広域分布種をはじめとして、東アジア全体の哺乳類の種多様性の実態把握とその形成について解明が進むことが期待される。若手研究者による日本での共同調査は、東アジア島嶼域における種多様性の実態を共有し、新たな学術的進展を目指すことに加えて、若手研究者育成の側面もある。実際の野外調査を主導的に担っていく若手研究者の人的ネットワークを構築すること、調査技術の習得と標準化による各国間の正確なデータ共有など、哺乳類の種多様性理解の今後の進展にきわめて有意義な成果が期待される。若手研究者が来日中に得た成果は、直後の国際シンポジウムを通じて、それぞれの指導教員とも共有することにより、多国間の共同研究と、それを通じた人材育成の効果的な協力体制の構築につながることも期待できる。</p>

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 23 年度	研究終了年度	平成 25 年度	
研究課題名	(和文) 東アジアにおける爬虫両生類相の調査と標本収蔵施設間の連携 (英文) Faunal survey on amphibians and reptiles and cooperation among specimen repositories in East Asia					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 松井正文・京都大学・教授 (英文) MATSUI Masafumi・Kyoto University・Professor					
相手国側代表者 氏名・所属・職	(中国) JIANG Jianping・Chengdu Institute of Biology, Chinese Academy of Science・Professor (韓国) OH Hong-Shik・Cheju National University・Professor (ベトナム) NGUYEN Huu Van・Hue University・Senior Lecturer					
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	中国 〈人/人日〉	韓国 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
	日本 〈人/人日〉		1/5 (2/10)	0/0 (0/0)	3/36 (1/15)	4/41 (3/25)
	中国 〈人/人日〉	1/32 (1/100)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	1/32 (1/100)
	韓国 〈人/人日〉	0/0 (0/0)	0/0 (2/10)		0/0 (0/0)	0/0 (2/10)
	ベトナム 〈人/人日〉	0/0 (1/89)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (1/89)
	合計 〈人/人日〉	1/32 (2/189)	1/5 (4/20)	0/0 (0/0)	3/36 (1/15)	5/73 (7/224)
	② 国内での交流					
	0 人/0 人日					
日本側参加者数	19 名 (12-1 日本側参加研究者リストを参照)					
中国側参加者数	10 名 (12-2 中国側参加研究者リストを参照)					
韓国側参加者数	8 名 (12-3 韓国側参加研究者リストを参照)					
ベトナム側参加者数	4 名 (12-4 ベトナム側参加研究者リストを参照)					



<p>24年度の 研究交流活動 計画</p>	<p>6月に中国・四川省で開催するセミナー（S-3）にあわせて、日本・韓国のメンバーが中国科学院成都生物研究所などの中国側メンバーとの学術交流を実施する。7月に開催する国際シンポジウム（S-1）にあわせて、中国側の研究協力者（京都大学客員教授として3ヶ月）および大学院生1名（本事業により1ヶ月）を日本に招聘して、研究連絡および分子遺伝学的実験のトレーニングを行い、共同研究を推進する。また、協力機関である国立ベトナム自然博物館に所属する研究協力者は、論文博士取得支援事業に採択されており、5月から3ヶ月間、研究指導を受けるために京都大学に来日するので、若手研究者育成を行いながら、本事業に関連した共同研究を推進する。8月には、そのベトナム側研究協力者と日本側のメンバー4名がベトナムで共同して野外調査と共同研究を行う。生物多様性が高く、中国との共通種・近縁種が多い、北部の国立公園などで爬虫両生類相の調査を行って、同時に研究協力者への実地指導や情報交換にも取り組む。日程の最後には研究協力者の所属している国立ベトナム自然博物館で標本調査や研究者交流を行う。中国およびベトナムの研究者の来日期間は重複しており、中国南部からベトナムにいたる地域における爬虫両生類の種多様性の理解に向けた多国間共同研究体制の構築も進める。8月には国際爬虫両生類会議がカナダで開催され、メンバーも参加してこれまでの本プログラムの成果の一部について発表を行う予定である。また日本動物学会や日本爬虫両棲類学会の年次大会においても研究成果について発表を行う。</p>
<p>24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>ベトナムの調査予定地は爬虫両生類の種多様性がきわめて高く、東アジアの爬虫両生類相の解明を目指す上で非常に重要な地域である。現地の研究協力者を事前に日本に招聘して交流を深め、さらにセミナー後に連続して現地で合同調査を実施することにより、効率的に成果をあげることが期待される。ベトナム側研究協力者の所属するベトナム国立自然博物館は、ベトナムの陸上脊椎動物の標本収蔵を国家的に担い、ベトナム国内の大学や研究機関の標本収蔵施設との連携体制を持っており、本共同研究の目指す標本収蔵施設間の連携の強化においても大きな成果が期待される。実際に23年度には中国での調査を2度行い、中国側研究協力者との連携も強化され、部局間学術交流協定の締結が24年度初めに行われる予定である。同じように24年度は中国に続いてベトナムとの交流を深めるとともに、韓国も含めた参加4ヶ国における研究協力体制を構築することが期待される。24年度の本計画により得られた系統分類学および自然史に関する知見、そして人的ネットワークの形成は、ベトナムだけでなく東アジア全体における爬虫両生類の種多様性、生物地理、多様性の起源の解明のために将来にわたって非常に有用になることは間違いない。</p>

## 8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「第2回東アジア脊椎動物種多様性の国際シンポジウム」
	(英文) JSPS AA Science Platform Program “Second International Symposium on East Asian Vertebrate Species Diversity”
開催期間	平成24年7月27日 ~ 平成24年7月29日 (3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、京都市、京都大学
	(英文) Japan, Kyoto, Kyoto University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 本川雅治・京都大学・准教授
	(英文) MOTOKAWA Masaharu・Kyoto University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

### 参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	33/99
中国 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	3/9
	C.	3/9
韓国 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	4/12
	C.	0/0
ベトナム 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	3/9
	C.	1/3
合計 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	10/30
	C.	37/111

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本事業のメンバーが集い、事業計画の進捗状況を把握するとともに、東アジアにおける脊椎動物の種多様性研究の現状について研究発表を通じた学术交流を行う。本シンポジウムはメンバーのみならず、関連研究者の広い参加と発表の場を設ける。若手研究者育成のために、大学院生等の本事業経費による招へいや口頭発表の機会を増やすとともに、口頭・ポスター発表における若手研究者の優秀発表賞の表彰制度を設ける。東アジアにおける脊椎動物の標本ネットワーク形成のために、拠点機関である京都大学総合博物館の展示・収蔵施設の見学も行う。</p>		
<p>期待される成果</p>	<p>東アジアにおける哺乳類、爬虫両生類を主とした陸上脊椎動物の種多様性の現状について、参加メンバーが研究の現況を共有し、今後の共同研究をさらに効果的に進めるための有効な議論がなされることが期待される。また、日本を含めた各国からの若手研究者が多数参加し、研究発表をすることから研究者育成にも大きな効果が期待される。参加は本研究課題メンバーに限定しないので、幅広い議論が期待できるとともに、研究課題参加4ヶ国以外からの参加者も見込まれることから、本研究課題の将来の発展的拡大にむけた枠組み形成にも有効な場になることが期待される。</p>		
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>国際シンポジウム実行委員会          委員長：本川雅治（京都大学・准教授）          事務局長：浅原正和（京都大学・博士課程）          委員：松井正文（京都大学・教授）                  疋田努（京都大学・教授）                  森哲（京都大学・准教授）                  西川完途（京都大学・助教）                  押田龍夫（帯広畜産大学・准教授）                  篠原明男（宮崎大学・助教）</p>		
<p>開催経費 分担内容 と概算額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 会場費 ポスターパネル 印刷費 消耗品</p>	<p>金額 440,000 円 150,000 円 100,000 円 10,000 円 合計 700,000 円</p>

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「東アジア産哺乳類の種多様性研究」
	(英文) JSPS AA Science Platform Program “Species diversity research for East Asian mammals“
開催期間	平成 24 年 4 月 27 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 中国、山東省威海市、山東大学威海分校
	(英文) China, Shandong Province, Weihai City, Shandong University at Weihai
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 本川雅治・京都大学・准教授
	(英文) MOTOKAWA Masaharu・Kyoto University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) LI Yuchun・Shandong University・Professor

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (中国)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	0/0	3/3
	0/0	0/0
	0/0	9/9
中国 〈人/人日〉	0/0	0/0
	0/0	0/0
	0/0	9/9
合計 〈人/人日〉	0/0	3/3
	0/0	0/0
	0/0	9/9

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない(参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

セミナー開催の目的	<p>東アジアにおいて哺乳類の種多様性の解明において、国際共同研究が重要である。本セミナーでは、東アジアにおける齧歯類と翼手類をはじめとする哺乳類の種多様性理解の現状と展望について、話題提供と議論を行う。京都大学総合博物館と本事業のほか、中国国家自然科学基金委員会の重要国際共同研究プロジェクトを進めている山東大学、広州大学の研究者が話題提供し、韓国やベトナムとの共同研究が必要な具体的なテーマについて意見交換し、多国間共同研究の枠組みの重要性について共通認識をもつことを目的とする。</p>	
期待される成果	<p>本セミナーでは、東アジアの中でも最大の面積をもつ中国における哺乳類の種多様性研究の現状を共有し、今後の展望について議論することができるかと期待される。特に日本との共同研究体制の強化と、韓国、ベトナムを含む事業参加4ヶ国の多国間共同研究を具体的な動物群のテーマにそって有効に機能させていく方策についても合意形成を図ることが出来ることが期待される。本セミナーにあわせて、京都大学総合博物館と山東大学海洋学院の部局間学术交流協定の締結式を行う予定である。共同研究の発展に加えて、本セミナーが山東大学の大学院生の若手研究者育成にも寄与することが期待される。</p>	
セミナーの運営組織	<p>セミナー開催担当者          本川雅治・京都大学・准教授          LI Yuchun・Shandong University・Professor</p>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 なし
	中国側	内容 会場準備費（看板など） 金額 3万円

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「第2回東アジア爬虫両棲類種多様性セミナー」
	(英文) JSPS AA Science Platform Program “2nd Seminar on Species Diversity of Amphibians and Reptiles in East Asia“
開催期間	平成24年6月(1日間、日は未定)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 中国、四川省成都市、中国科学院成都生物研究所
	(英文) China, Chengdu, Chengdu Institute of Biology, Chinese Academy of Sciences
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 西川完途・京都大学・助教
	(英文) NISHIKAWA Kanto・Kyoto University・Assistant Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) JIANG Jianping・Chengdu Institute of Biology CAS・Professor

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (中国)	
	A.	
日本 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	1/1
	C.	2/2
中国 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	9/9
韓国 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	2/2
合計 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	1/1
	C.	13/13

A.セミナー経費から旅費を負担

B.共同研究・研究者交流から旅費を負担

C.本事業経費から旅費を負担しない(参加研究者リストに記載されていない研究者は集計)

しないでください。)

セミナー開催の目的	本セミナーは23年度に現地調査を行い、かつ標本収蔵施設訪問も行って連携を深めた中国において、これまでの本プログラムの研究および関係機関の連携状況に関する発表を行うことが目的である。国内外の関係する研究者や機関に本プログラムの成果を公開することで、更なる国際的な研究連携も視野に入れたアピールを目指している。	
期待される成果	本セミナーは第5回アジア爬虫両棲類学会議のワークショップ枠を借りて行われる予定で、東アジアだけでなく、同会議に参加する世界の爬虫両棲類学者に対して、本プログラムの紹介とその成果をアピールすることになるだろう。同時に、本セミナーの発表に興味を持った研究者らとの交流を深める事で、更に本プログラムの目指す人的／施設間の連携を深めて、研究の発展につながる事が期待される。	
セミナーの運営組織	セミナー開催担当者： 西川完途・京都大学・助教 JIANG Jianping・Chengdu Institute of Biology CAS・Professor	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 なし
	中国側	内容 なし

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成24年度は実施しない

## 9. 平成24年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	中国 〈人／人日〉	韓国 〈人／人日〉	ベトナム 〈人／人日〉	合計
日本 〈人／人日〉		4/34 (4/50)*	0/0 (0/0)	4/66 (2/45)	8/100 (6/95)
中国 〈人／人日〉	3/64 (3/112)*		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	3/64 (3/112)
韓国 〈人／人日〉	4/31 (0/0)	0/0 (2/10)*		0/0 (0/0)	4/31 (2/10)
ベトナム 〈人／人日〉	3/31 (2/119)*	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		3/31 (2/119)
合計 〈人／人日〉	10/126 (5/231)	4/34 (6/60)	0/0 (0/0)	4/66 (2/45)	18/226 (13/336)

\* 8-1 共同研究と 8-2 セミナーでの渡航予定者が同一であるため、本項の数字は 8-1 表の数字に基づく。

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人数・日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

4/24 〈人／人日〉
-------------



## 10. 平成24年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	150,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,650,000	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	327,000	
	その他経費	690,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	183,000	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5,500,000	

## 11. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	700,000	4/34
第2四半期	3,500,000	17/186
第3四半期	400,000	1/30
第4四半期	400,000	0/0
合計	5,000,000	22/250